

(特別賞) 群馬県 廣瀬 様

年金制度～親から子への思い遣り～

私が二十歳になる時に、両親から国民年金についての話がありました。短大卒業まで後半年。来春からの就職が決まっていた時の話しです。短大に入学するに当たって、一人暮らしがしたいというわがままに應えて、授業料などだけでなく、毎月の生活費も工面してくれていたのに、「学生の猶予っていうのもあるみたいだけど、将来満額受け取れないと困るだろうから、上乘せして仕送りするから、きちんと加入しなさい。」との話しでした。年金制度の事は分からないながらも、素直に手続きを済ませながら、「自分たちが亡くなった後の、私の老後の事まで考えてくれているんだな。」と言葉にしようまく伝えられませんでした。感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その時の両親の思いを無駄にしたくないので、就職し、結婚し、退職し・・・等という時には、必ず手続きの漏れや、払い忘れがないようにと注意していました。結婚する際に、主人にも確認したところ、「なにそれ？」と全く年金制度に関しての意識がなく、驚いたのを良く覚えています。やはりご両親がきちんと加入の手続きなどは済ませていましたが、払い込みの手続きなどは主人自身がせずだったので、「結婚するのだから、親任せではなく、私達がお互いに注意しましょう。」と確認しあいました。

扶養に入れば必要な手続き、収入が扶養の範囲を超えれば1号保険者としての手続き…。知識は乏しくても、必要あれば何度も手続きに出向き、主人の分も、私の分もしっかり納めてきました。子どもに恵まれてから、主人が転職する際に、末日付けでなく退職し、すぐ翌月からは厚生年金に加入という事がありましたが、この場合は・・・と疑問に思い確認したところ、辞めた月の一ヶ月だけは国民年金に加入との事でした。会社側が、辞める社員に対しての年金分を払いたくないという思惑での末日付けでない退職の処理の仕方に、こういう煩わしさがついてくるのだなと思い、笑いながら「今度転職する時は、末日付けで転職してくださいね。国民年金やら、健康保険やら、みんな絡んでくるから、うっかり無保険の状態でお医者さんに掛かることになったら、大変よ。」と話し合いました。

こんな風に、親からの思い遣りの証である年金加入を、子を持つ親となった私たちも、漠然と老後の生活に困らないようにと、加入の意義をようやく理解したように思います。

年金制度は老後の為の制度と思い込んでいた節がありますが、任意の生命保険を見直す機会に、万が一の際の遺族年金の制度もある事を知りました。そういえば、そうだけ・・・程度の認識だったのが、具体的に公的な遺族年金があって、とすると生命保険の給付金や、毎月の掛金はコレくらいが妥当じゃないか・・・とまた年金制度について夫婦で話し合う機会になりました。払い忘れがないように気をつけてきた私の努力も、「お前がきちんとこういう事やってくれてるから、安心だな。」と思いがけず主人から褒めてもらい、嬉しかったです。

まさか、その数ヶ月後に、「万が一」の出来事が起きるとは夢にも思っていませんでしたが、主人が事故で急逝し、私と子どもが「遺族年金」を受給することになりました。こういった手続きをひとつひとつ済ませていくのは本当に辛かったですが、手続きの窓口で、年金の記録と私の記憶に全く間違いがなく、払い忘れなども一切なかったおかげで、早い段階で受給できるようになり、実際に入金があった時にはずいぶんほっとしました。たった1歳の子どもにも、遺族年金の受給者資格ができたので、年金手帳が交付され、複雑な思いでした。私が亡くなったら、この子は二十歳よりも前にこの年金手帳を使うことになるのかと思うと、もう万が一の事が起きませんようにと願うばかりです。

まだまだ子どもも幼く、遺族年金だけでは決して余裕のある生活は送れませんので、生活に必要な余裕の資金を得るために、一生懸命働いてきました。厚生年金やその他諸々の天引きのほかに、保育園に預けている保育料や、税金を払って・・・という、余裕の資金というには程遠い僅かばかりの金額になってしまい、自分の頑張りが何だか無意味なように思えてきます。それでも遺族年金という収入のおかげで、私の収入だけではおぼつかないところを、生活費や、教育資金用にと預金する事ができているので、とても助かっています。

現在、子どもの精神的な面を考え転職したいと考え、失業中なのですが、学生の猶予の他にも、失業者も猶予を頂けるとのことで、早々に手続きをさせて頂きました。年金制度は、世の中の流れに対してもこうやって猶予を設けたりして、国民が生活していく上での大切な制度なのだと改めて考えさせられました。

国民年金に対しての意識が薄く、あえて加入せずに、猶予の手続きさえしていない方が増えているとのニュースを耳にします。将来老齢年金を受給できず、最終手段としての生活保護を受給する形になってしまうのではないかと、心配になります。その生活保護も、苦しい中にも払ってきた税金が使われるのですから、年金加入をおろそかにしてしまうと、税金の使い道にも悪影響が出てきているのをとても残念に思っています。国民の生活の思い遣りのシステムを、どう周知していくのか、大きな課題だと思います。

いつか、子どもに年金制度の大切さを、私が両親から話しをしてもらったように、夫婦で確認し合ったように、今度は私が子どもに伝える日が来るかと思います。金銭的うんぬんというお説教じみた話しではなく、「思い遣りのシステムなんだよ。」と、しっかり伝えられるといいなと思います。